

新聞を人生のパートナーに 100年時代

沖縄で全国初私立の夜間中学を目指す

さまざまな事情で学校に通えなかった人々のため、全国に例のない私立の夜間中学校の開設を目指す教育者がいる。沖縄県で自主夜間中学を営むNPO法人「珊瑚舎スコーレ」(同県南城市)の星野人史代表(モモ)。NPO法人の運営では正式に卒業証書を発行できず、進学先も制限されるため、学校法人運営の無償の私立中学として県に認可申請する計画だ。「学び直しをしたい一人一人を支える学校をつくりたい」と訴える。(中山洋子)

いつでも 誰でも 学び直し

埼玉から移住の教育者が奔走



星野人史さん

珊瑚舎スコーレは、埼玉県「自由の森学園」校長だった星野さんが沖縄に移住し、二〇〇一年に開いたフリースクールだ。昨年四月に東海岸



にある南城市に新築した校舎に移転したばかり。同時に学校法人も立ち上げ、高等部は学校教育法に基づく高等専修学校として再スタートしている。

同校に通うのは子どもたちだけではない。沖縄戦による混乱や貧困で、学校に通えなかった高齢者が多いことに気づいた星野さんは〇四年に、夜間中学を併設した。沖縄初の夜間中学には、学校を出ていないことを隠してきたお年

寄りたちが「学校に通える日待ちかねていた」と集まった。



ボランティアの教師らが支える夜間中学の授業
◎週1回の屋外体験学習で遊び場を自ら補修する子どもたち=いずれも沖縄県南城市で

夜間中学校 文部科学省によると現在、12都府県に36校の公立夜間中学がある。自治体に設置を促す教育機会確保法が2017年に完全施行され、少なくとも22年4月~24年にかけて7自治体が新規開設を予定している。ただ、大都市が中心で沖縄県などでは具体的な動きにはなっていない。10年の国勢調査によると、義務教育未修了者は全国で12万8187人。うち沖縄県は6541人で人口1万人あたり47人と突出して多い。

ただ、NPO法人の運営では正式に卒業認定をすることはできないため、夜間中学の卒業証書はこれまで地元公立中学校に発行してもらってきた。長年ものかしい思いをしてきた星野さんは、高等専修学校と同じく、夜間中学も学校法人の運営に移行する計画に着手した。その背を強く押す出会いもあった。

「自分を創る」体験 生きる支えに

ウソをついているから強いことはいえない」という女性の夢を支えてくれる学校はどこにもなかった。「公立の夜間中学ができるのを待ってはられない。すべての市町村に、朝も昼も夜もやっている学校があったら彼女のような人も通える」と星野さん。夜間中学を私立化するだけでなく、授業をオンラインで受けることができる教室も県内のいたるところにつくれば良いと考えた。

「教室と学習支援スタッフやサポーターがいればできる。コロナでオンライン授業が浸透したおかげで、夜間中学の幅も広がった」星野さんは昨年十二月に県

ボランティアで教壇に立つ退職教員らの熱意にも支えられ、夜間中学にはこれまで約百九十人が入学し、九十五人が卒業。三十二人が近くの定時制高校に進学している。最近では沖縄戦を体験した高齢の生徒は減っており、本年度は四十代~七十代の五人が学ぶ。ブラジルで育った城間清広さん(六六)＝南城市＝もその一人だ。移民の両親たちと一家で沖縄に戻ったのは十代後半のころ。日本語もおぼつかないまま働きつめの日々を送り、還暦を超えて「勉強をやり直したい」と通い始めた。日本語や数学のほか音楽などもあり、どんな授業も「分かること楽しい」と笑顔がこぼれる。

新雑誌はライフスタイル全般を取り上げ、料理のレシピには1人分の分量もできる限り表記する。「4人分の割る4ではなく、1人前でおいしい分量ってやっぱりあるんです。(食材を)無駄にしない」



独りでもおいしく 楽しく

料理家栗原はるみさん=写真=が3月に新雑誌「栗原はるみ」(年3回刊行)を創刊。人生の伴侶との死別を経験し、家族から自分中心へと